

Mémoire 2025

第86回 菊花賞 (GI)



春GI未出走の大器が最後の一冠を制覇

春は不完全燃焼に終わった大器がGI初制覇、鞍上は史上初の菊花賞3連覇となった。

セントライト記念を制した皐月賞馬ミュージアムマイルは天皇賞(秋)へ。ダービー馬クロワデュノールは凱旋門賞へ。三冠最終戦は、春のGI馬が2頭とも不在の中で行われることとなった。

単勝3.8倍の1番人気は、春にデビュー3連勝で青葉賞を制したエネルジコ。状態が整わず日本ダービー出走は見送ったが、古馬相手の新潟記念で2着と好走して菊花賞へと駒を進めてきた。2番人気は4.3倍でエリキング。こちらはデビュー3連勝で京都2歳Sを制したところで骨折。復帰後は皐月賞11着、日本ダービー5着に終わったが、この秋は神戸新聞杯を制し、万全の態勢で最後の一冠に臨んでいた。

小雨が降る稍重馬場での一戦は、ジーティーアダマンの先導で進んだ。エネルジコとエリキングは後方を追走。向正面の終わり頃、中団からマイユニバースが進出を開始すると、エネルジコがこれに追随し、勝負どころで一気に4番手まで上がっていった。

勢いよく4コーナーを回ったエネルジコは、好位から先頭に立ったラジオNIKKEI賞勝ち馬エキサイトバイオを残り200メートル前で捉え、

さらに差を広げる。最後は後方からエリキングが追い込んだが時すでに遅く、2馬身差の完勝を収めた。

C.ルメール騎手は「彼はスタートがあまり上手ではないので、今日は後ろの方で乗ろうと思いました。向正面では武豊騎手(マイユニバース)の後ろで、良いポジションでした」と会心のレースを振り返った。これで菊花賞は史上初の3連覇。通算5勝目は武豊騎手に並ぶ最多勝タイとなった。

高柳瑞樹調教師はスターズオンアースのオックス以来、3年ぶり3度目のJRA・GI勝ち。レース間隔を空け、栗東滞在で調整するなどの工夫で、見事に愛馬をタイトルホースに導いた。

第86回菊花賞 (GI)

10/26 京都競馬場 3,000m(芝・右・外) 小雨・稍重 18頭

着順	馬名	性齢	斤量	騎手名	調教師名	タイム/着差	人気	通過順位
1	エネルジコ	牡3	57	C.ルメール	高柳 瑞樹	3:04.0	①	15 14 8 4
2	エリキング	牡3	57	川田 将雅	中内田充正	2	②	17 17 12 8
3	エキサイトバイオ	牡3	57	荻野 極	今野 貞一	3/4	③	4 15 2 1
4	ゲルチュタール	牡3	57	坂井 瑠星	杉山 晴紀	ハナ	⑤	9 9 12 8
5	レッドバンデ	牡3	57	佐々木大輔	大竹 正博	クビ	⑨	7 6 6 4

エネルジコ
栄光の蹄跡

9

ドゥラメンテ 114 I
エネルジコ
エノラ (Noverre)
2022.4.23 生 安平・ノーザンファーム



牡3
黒鹿
57

C.ルメール
1979.5.20生 B型
南シルクレーシング
高柳 瑞樹(美浦)

2025.8.31 新潟
新潟記念 GⅢ
16ト 1人 2(114)
56%。C.ルメール
芝2000良 1:58.1

2025.4.26 東京
テレビ東京杯青葉賞 GⅡ
13ト 1人 1(113)
57%。C.ルメール
芝2400良 2:24.8

2025.2.2 東京
セントポリア賞 1勝クラス
13ト 1人 1(—)
57%。池添 謙一
芝1800良 1:48.2